

各地域部会における主なご意見について

資料 6

地域部会	内容	事務局コメント
県北	●施策（案）の中に「高齢者」に関するものがないが、高齢化が進んでいる秋田県の現状を考えれば、高齢者向けの施策を計画に盛り込んでもらいたい。	●県民アンケート等から意見を抽出するなどし、それを踏まえて計画に反映できるようにしたい。（資料2，3で追記）
	●タクシーもバスと同様にキャッシュレス化を進めていく必要があるものの、コストを考えると導入が難しい事業者が多いことから、タクシーのキャッシュレス化に対する支援についても検討いただきたい。	●資料2の事業者アンケートに追記。 ●国の補助制度や今後のコロナ関連予算、市町村の支援可能性なども踏まえてよく話を伺っていきたい。
	●人口動態に変化があれば公共交通にも影響が出てくるが、地域別に人口がどう変化していくか、10年後、20年後の人口動態を踏まえた内容にしてほしい。	●本計画の対象期間は、R4～R8までの5年間であるが、将来の県の地域公共交通を取り巻く環境にも留意しながら計画策定を進めていきたい。
	●上小阿仁村の自動運転の取組は計画に記載されるのか。	●計画の現状部分において言及はする予定であるが、施策として位置づけるに当たっては、村の意向等を十分に踏まえる必要がある。
	●通学の際の公共交通利用の掘り起こしについては各圏域の高校の実情を反映して記載すべき。	●可能な限り、実情を反映できるよう努めたい。
中央	●公共交通機関とマイカー利用をどのように両立させるのか、県民が公共交通に対して持っている不満をどのように計画に反映させていくのが課題である。	●計画策定の中で行うアンケート調査などの結果を十分に踏まえて計画策定を進めていきたい。
	●いわゆる交通弱者といわれる方や旅行者など地域外の方の利用促進など、全体で交通を支えるような仕組みづくりが必要ではないか。	●計画に位置づける施策については、このような視点も踏まえて検討していきたい。（資料3に追記）
	●将来にわたって持続可能な公共交通を維持するためには、県民の積極的な利用を促すことが必要であり、そのための教育や高校入学時のガイダンスでのPRなど地道な活動も重要である。	●資料2の高等学校アンケートに追記 ●このような観点で、交通事業者等で連携した取組ができないか計画策定の中で検討していきたい。
	●乗り継ぎの待ち時間が長く不便に思うときがある。	●乗り継ぎの円滑化については、計画に位置づける施策を検討する中で議論していきたい。（資料2，3で追記）
	●スマートフォンの普及率が高いが、バスロケーションシステムを使いこなせないという方は多いため、周知についても留意してほしい。	●バスロケーションシステムなどデジタル技術を活用した取組については使い方の周知などを十分に行うとの視点を計画の中に盛り込んでいきたい。
	●公共交通の利用は渋滞緩和の効果があることと、他にも渋滞対策について記載できるものがあれば検討してほしい。	●計画に位置づけられるよう検討するとともに、有益な情報等の提供について御相談させていただきたい。

地域部会	内容	事務局コメント
県南・由利	●学校からの要望は運行本数や運行時間に関するものが多いが、利用する際には、家庭の経済的負担という面から運賃の要素も大きいと考えられ、そのような視点の記載も必要ではないか。	●資料2に追記。 ●これを踏まえて、どのような施策展開ができるかについては、各交通事業者等とも意見交換をしていきたい。
	●厳しい財政下において、交通空白地域をなくすため様々工夫しているものの、利用者が実際そこまで望んでいるのか、どこまで地域公共交通を維持すべきかが課題ではないか。	●難しい課題・論点であり、計画策定の過程の中で議論を深めていきたい。
	●バス路線の再編等に当たっては、各市町村のまちづくりの将来像が明確であることが重要である。 ●まずは交通計画を策定し交通をどうするか整理した後に、高校の統合計画などが考えられるべきではないか。	●本計画の対象期間は、R4～R8までの5年間であるが、これに関連するまちづくりの計画や高校の統合計画などと整合のとれた内容とする予定であり、御懸念の点については留意した上で策定を進めていきたい。
	●公共交通の拡充と、既存の交通利用に対する助成の拡充のどちらが住民の利便性を高めるのかといった検討も必要である。	●難しい課題・論点であり、計画策定の過程の中で議論を深めていきたい。
	●バス乗務員の人手不足、高齢化が今後のバス事業の継続にも関わる深刻な問題である。	●資料2の課題・論点でも提示しているとおり、重要な問題であると認識しており、業界団体や運輸局などとも計画への位置づけ方について検討していきたい。
	●住民アンケートで「バス路線を残してほしい」、「バス路線があれば乗る」という回答が多くても、実際はほとんど利用されない結果となるので、アンケート結果の分析に当たってはこの点を留意してほしい。	●御指摘の点留意の上、アンケート結果の分析を行いたい。
	●高校アンケートの未回収校については、再度回答を回収するよう努めてほしい。	●鋭意対応中である。